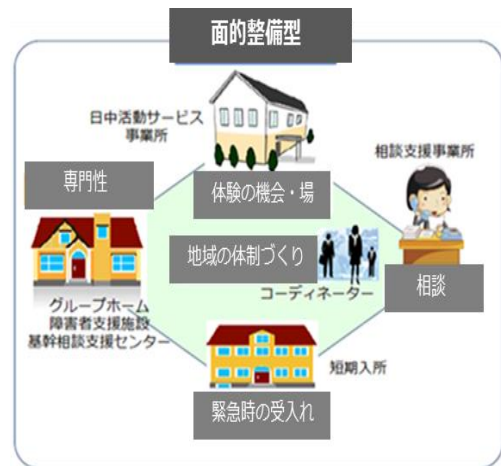


「地域生活支援拠点等検討部会」中間報告について

1 検討事項

障害者の高齢化、重度化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能を地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築する地域生活支援拠点等（以下「拠点」という。）を平成32年度末までに面的に整備するための検討を行います。

なお、今年度の当部会では「拠点整備に向けた本市の現状と課題の抽出」及び「現状と課題を踏まえた本市に必要な機能の検討」を行います。



2 部会員

所属機関	氏名
社会福祉法人 観寿々会	堤 勝彦（部会長）
医療法人 成精会	垣田 泰宏
刈谷市障害者支援センター	相澤 道子
社会福祉法人 ぶなの木福祉会 （西三河南部西地域アドバイザー）	山北 佑介
刈谷市民生委員・児童委員連絡協議会	角谷 信男
刈谷市社会福祉協議会	梅本 秀之

3 検討経過

当事者及びその家族の意見を反映した検討を進めるため、「親亡き後」の支援に関して大きなニーズを持つ家族会にアンケート調査及びヒアリングを行いました。また、一部の障害福祉サービス利用者にアンケート調査を行うとともに、既存調査の結果等を活用して、本市における現状と課題を把握しました。

回	開催日	内容
第1回部会	5月23日	<ul style="list-style-type: none"> 地域生活支援拠点等検討部会について 現状分析、課題把握の方法について
第2回部会	7月20日	<ul style="list-style-type: none"> 拠点整備に向けた現状と課題について アンケート内容について
アンケート	期間 8月上旬～9月中旬 対象者 ・家族会（刈谷市肢体不自由児・者父母の会、刈谷手	

		をつなぐ育成会、刈谷地域精神障害者家族会) ・生活介護事業所、就労継続 A・B 型事業所、就労移行支援事業所及び障害者支援センターの利用者 ・刈谷病院
第 3 回部会	9 月 26 日	・アンケート中間結果を踏まえ、家族会代表者へのヒアリングを実施

4 検討結果

(1) 地域資源等の状況

拠点に求められる機能に関して、本市における地域資源の現状は以下のとおりです。

相談
<ul style="list-style-type: none"> ・基幹相談支援センターが相談窓口となり、適切な機関に案内している。 ・指定特定相談支援事業所（計画相談）が 4 か所、指定一般相談支援事業所（地域移行・地域定着）が 2 か所ある。 ・全ての相談支援事業所が集まり、定期的に事例検討研修会を行っており、困難ケースの解決方法などの意見を交換し、情報を共有している。
体験の機会・場
<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの体験利用ができる施設が 1 か所（2 室）ある。 ・当事者団体が将来のグループホームなどでの自立生活のために宿泊体験等の活動を行っている。
緊急時の受入れ
<ul style="list-style-type: none"> ・虐待を受けている障害者等の緊急一時保護施設が 1 か所（2 室）ある。 ・虐待に関する相談について、休日・夜間も対応している。 ・緊急時に一時的に入所ができる短期入所の事業所が 4 か所ある。
専門性
<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアが必要な人を受け入れしている事業所が 7 か所ある。（たんぼぼ、ひかりワークス風鈴、ひかりライフ風花、そよ風、ひかりっこ、ひかりきらきら刈谷、パパママハウス careroom、なんてん） ・重症心身障害のある人を受け入れしている事業所が 3 か所ある。（ひかりライフ風花、ペガサス、ペガサスⅡ） ・強度行動障害のある人を受け入れしている事業所が 4 か所ある。（ハロポンズ、くすのき園、ペガサス、ペガサスⅡ） ・市内に精神科を有する医療機関がある。
地域の体制づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・刈谷市障害者自立支援協議会と 4 つの専門部会及び事業所連絡会が、情報や課題を共有し、解決に向けた取り組みを推進している。

(2) アンケート調査及びヒアリング等による課題

アンケート調査及びヒアリング等から、拠点の機能に関して、以下の課題があげられています。

相談
<ul style="list-style-type: none">・相談支援専門員が不足しており、相談支援体制の整備が十分とは言えない。・保護者がどこの窓口で相談したらよいか分からない。・土日や夜間に緊急連絡できる相談窓口がない。
体験の機会・場
<ul style="list-style-type: none">・将来の入所のため、短期入所の希望をしても利用できるまでの期間が長く、短期入所など生活体験の場が不足している。・グループホームの体験の場があるが、利用しやすい立地ではないなど不便である。
緊急時の受入れ
<ul style="list-style-type: none">・親（介助者）が病気など緊急時に受け入れてくれる施設がほしい。・短期入所の事業所が少なく、どの施設も常にほぼ満床で、希望する日や日数を確保できない。・医療的ケアが必要な人が増えているが、西三河南部西圏域に重症心身障害児者施設がないため、緊急時に対応できていない。・精神障害に特化したグループホームがない。
専門性
<ul style="list-style-type: none">・医療的ケアに対応できるグループホームが不足している。・支援員の不足により十分な支援体制がとれていない。
地域の体制づくり
<ul style="list-style-type: none">・親身になって相談や見守りを行ってくれる地域の体制が求められている。・親亡き後に自宅で1人暮らしを希望する人に対して、1人暮らしをしていくための見守りや支援などが必要とされている。

5 今後の検討事項

アンケートやヒアリング等から示された課題を整理、分析することにより拠点整備の基本方針や、必要な機能の検討を行います。

回	開催予定日	内容
第4回部会	11月16日	<ul style="list-style-type: none">・ニーズの整理、分析・整備済自治体の事例紹介
第5回部会	2月13日	<ul style="list-style-type: none">・基本方針及び必要な機能の検討